

平成30～34(2018～2022)年度 取組み内容及び評価指標

北九州市立美術館

| 分類 | 項目 | 5カ年計画(5カ年の取組み) | 平成31年度の取組み | 評価指標 |
|-------------------------|-------------------------------|--|---|---------------------------------|
| 1 作品 ～資料収集・環境管理・保存～ | (1) 収集活動の継続 | 開館以来の収集方針や所蔵内容を踏襲しながら、持続可能な収集活動を目指す。収集対象は、下記の分野に重点を置く。 ○現代の多様性を示す優れた作品 ○地域の美術史を構築する上で欠かせない作品 ○近現代美術史の展開をたどる既存コレクションの充実・補完 | ①既存コレクションを充実・補完するための作品・関連資料を収集する。 ②平成31年度の自主企画展にあわせて、サイトウマコトに関連する作品・関連資料を収集する。 | ○美術作品の収集内容 |
| | (2) 作品修復、作品保管環境の整備 | 所蔵作品・資料の管理に必要な保管環境を整備し、必要に応じて作品修復を行う。 | ①緊急性の高い作品から順次修復を行う。 ②日常的に収蔵庫内の点検・清掃を行い、作品と保管環境の安全を確認する。 | ○修復作品の内容・選定理由 ○収蔵庫の環境整備状況 |
| | (3) 美術資料・図書の一括管理 | 当館所蔵の作品及び図書データベースを整備し、開館50周年となる2024年の一般公開を目指す。 | ①作品データベースの資料作成、精査を行う。 ②図書データベースの資料作成、精査を行う。 ③作品・図書をよりよく運用するための整理を行う。 | ○データベースの整備と公開に向けた取組みの状況 |
| 2 公開 ～調査研究・展覧会～ | (1) 新鋭作家の継続的な紹介と評価 | 企画展やguest roomを通じ、新収蔵や研究発表を見据えた新鋭作家の調査を行う。 | ①コレクション展における特集展示「guest room」第4回展を開催する。 | ○作家についての調査内容 |
| | (2) 所蔵作家のアーカイブ整備、研究論文・口頭発表 | 所蔵作家に関する対面調査、資料収集を蓄積し、研究論文、口頭発表等を行う。 | ①サイトウマコト、高橋秀の自主企画展にあたり、論文公開や口頭発表を行う。 | ○研究成果の件数・内容 |
| | (3) 特色ある展覧会(コレクション展・自主企画展)の実現 | 調査研究に基づいたテーマ性の豊かなコレクション展や自主企画展を開催する。 | ①テーマの異なる3つのコレクション展(寺田政明、サイトウマコトのグラフィック、鉄)を開催する。 ②サイトウマコト、高橋秀、藤田桜を紹介する自主企画展を開催する。 | ○企画の内容 |
| | (4) 他館や他機関と共同企画の実施 | 他館、他機関と協同し、連携企画展や共同調査を行う。 | ①サイトウマコト展、高橋秀・藤田桜展、堂本印象展において、他館等(世田谷美術館、美術館連絡協議会等)との連携企画を開催する。 | ○連携の件数・内容 |
| 3 交流 ～教育普及・地域交流～ | (1) 学校と連携した学習プログラムの実施 | 教育現場や教育委員会と連携し、小中学生等が美術に触れ、楽しむ機会を広げる事業を実施する。 | ①全市立小学校3年生を対象に「ミュージアム・ツアー」を実施し、対話型鑑賞を実践する。昨年度の実施結果を踏まえ、ツアー開始時間等の見直しを行うと同時に、ガイドについては習熟を図るため、フォローアップ研修を実施する。 ②現行のミュージアムツアーのプログラムにいのちのたび博物館を加えることにより、社会見学プログラムとしての要素を付加し、学校が参加しやすいツアーを試行実施する。 | ○参加校の満足度 ○実施状況(②のみ) |
| | (2) 特色あるワークショップ・講演会の実現 | 子どもから大人まで幅広い年齢層を対象にしたワークショップ、講演会、ギャラリートーク等を実施する。 また、複数年にわたり継続した市民参加型のアート・プロジェクトを実施する。 | ①にじいろのさかな展と連動したワークショップを行う。 ②各展覧会で講演会やギャラリートークを行う。 ③長期ワークショップ「ぬいかけのけいかくしつ」を実施する。 ④美術館の役割をより知ってもらうための「美術館探検」を行う。 | ○参加者の満足度 |
| | (3) ボランティア組織の充実 | 現代の社会状況に対応した、独自の自立型のボランティア制度を構築する。 | ①プロジェクト班、鑑賞サポート班、美術情報班の3班に分かれた、新たな体制でのボランティア活動を支援する。 ②ボランティア活動を充実させるための研修・講義を行う。 | ○ボランティア制度の運営状況 |
| | (4) 他館や他機関との連携 | 他館、他機関との連携を促進し、同時に連携の内容を工夫する。 | ①北九州芸術劇場と連携し、コレクション展をテーマとした公演「切り裂かれたキャンパス」を行う。 ②朝倉市と共同し、被災地支援(朝倉市の児童を対象にしたミュージアムツアー)の実施を検討する。 | ○参加者の満足度 ○実施状況 |
| 4 広報 ～利用促進のための情報発信～ | (1) 現代社会に対応したマーケティング、広報戦略 | 展覧会等の傾向や予想される観客層などを分析し、SNS等も活用した効果的な広報活動を行う。 また、外国人向けの広報も充実させる。 | ①美術館に対する市民のニーズを把握するため、アンケート方法の見直しを行う。(出口調査、館外での実施など) ②美術館公式ツイッターまたはフェイスブックの開設を検討する。 ③旅行会社等への積極的なPR活動に努める。 ④インバウンド用パンフレットを積極的に活用する。 | ○広報の内容、件数 ○入館者数 ○アンケートの方法 |
| | (2) 他館や他機関との連携 | 来館促進のための連携先の確保と、連携の内容を工夫する。 また、美術館友の会の活用を図る。 | ①他館と連携した割引特典等の企画を実施する。 ②美術館友の会会報誌による展覧会情報等の発信に努める。 | ○連携の件数・内容 |
| 5 環境 ～快適なアメニティ空間の演出～ | (1) ミュージアム機能・設備の強化 | 美術館内外の環境について、館の安全確保と適正管理に努める。 また、ホスピタリティマインドの向上に努め、市民に開かれた美術館を目指す。 加えて、老朽化が進んでいるアネックス棟の整備計画の検討を行う。 | ①警備・清掃・受付監視等の現場会議を行う。 ②老朽化に伴う事故を防止するため、建物(建築・設備・消防等)点検を徹底する。 ③アネックス棟の整備計画を検討し、予算の確保に努める。 ④消費税の引き上げにあわせ、来館者サービス向上のためカード決済の導入について検討する。 | ○実施状況 |